

師である祖父から 引き^つ継ぎ守る 繁殖農家

岩手県からUターン者として町へ戻ってきた佐藤改さん。県内でもトップレベルの繁殖農家と言われる祖父・渡邊健介さんのもとで、その技術や知識を学びながら日々命と向き合っていました。

先の見えない状況の中で

現在、年間約60頭の和牛を市場へ出荷している佐藤さん。もともと岩手県の馬具関連の会社で働く傍ら馬術選手として活躍していましたが、次第に祖父が営む繁殖農家を継ぐという気持ち湧いてきたといいます。「私が勤めていたのは全国出張がある会社で、北は北海道から南は宮崎まで営業回りをしていました。毎月帰り足で川俣町へ寄っていました。年齢を重ねた祖父母が、個人経営では県内トップクラスである60頭もの牛を世話する現状は心配でした」と佐藤さんは話します。祖父である渡邊さんが営んでいた繁殖牛は経営が軌道に乗っていたものの後継者がおらず、いつまで続けることができるか先の見えない状況でした。

子育ても仕事も故郷で

平成28年の国体岩手県大会を終え、転換期を迎えた佐藤さん。「子どもは自分と同じように川俣町で育ってほしい」と考えていた佐藤



渡邊牧場
かい
佐藤 改 さん

さんは、長男が幼稚園に上がるタイミングで継ぐことを決意します。「関係者に聞くと、祖父は育て方が上手で肥育農家や家畜市場からの信頼も厚かったそうです。『2人がここまで大きくしたものをこのまま無くしてはいけない』そう思いました」と当時を振り返ります。



1

生命と向き合う日々

令和2年、川俣町に戻り、佐藤さんの農家としての第2の人生がスタートします。この3年間について聞くと「生命を相手にしているので予想外のことがよく起きます。朝、牛舎に行くと牛が死んでしまっていたり、夜中に分娩が始まったり。寝ている間にすでに分娩していたこともありましたね。でも、私が園児の頃から祖父が副会長を務めていた乗馬クラブで馬と触れ合ったり、高校時代、畜産科で牛の世話をしていたので大変だと思ったことはほとんどありません」と笑顔を見せます。



2



4

1. セリの前のブラッシングは必須 2. 朝昼夕に3種類の餌を与えている 3. 生まれた直後の子牛を拭く 佐藤さん 4. 近隣農家の牛もセリ市場へ載せていくこともある

繁殖農家と肥育農家

繁殖農家



母牛に子牛を生ませて約9～10か月育てて家畜市場に出荷する。

肥育農家



家畜市場などから子牛を仕入れて約20～21か月育てて出荷する。

※親牛を温度センサーで監視し、分娩などを検知しメールでお知らせする、畜産農家の方のためのシステム。



3

祖父を超えるために

佐藤さんは祖父のメソッドを引き継ぎつつ、※モバイル牛温恵や獣医による定期検診を導入するなど、高校時代や営業先で学んだことを活かして、より安定的な繁殖農家を目指しています。「仕事はスムーズに進められるようになったので、後は祖父を超えるように餌を変えたり病気を事前に防ぐなど、より良い牛を出荷できるように、試行錯誤を続けていきます」そう話す佐藤さんの目は遠くない未来を見据えていました。

-Interview-



渡邊牧場 けんすけ
渡邊 健介 さん

後

継者もおらず、廃業のため徐々に繁殖牛の数を減らしていこうと考えていた頃に、孫が引き継いでくれることになりました。この仕事は難しいのはもちろん、収入や生活リズムが安定しないので無理に引き継いでもらうものではなく、本人の「やりたい」という意思があれば継いでほしいと思っていました。一緒に仕事をする中でまだまだ未熟な部分がある一方、時代の変化にあわせた繁殖農家の在り方を体現しようとしていることを肌で感じています。今後も出来る限り自分の知識や経験を教えていきます。



▶セリ前には尻尾や爪まで清掃する